

地鎮祭(向日市T様邸)

最近はなかなかお目にかからなくなった地鎮祭の様子です

●無事、安全に、素敵な家が建ちますように……



地鎮祭(じちんさい、とこしずめのまつり)とは、[土木](#)工事や[建築](#)などで[工事](#)を始める前に行う、その[土地](#)の[守護神](#)([鎮守神](#))を祀り、土地を利用させてもらうことの許しを得る。

これには[神式](#)と[仏式](#)がある。一般には神を祀って工事の無事を祈る儀式と認識されており、[安全祈願祭](#)と呼ばれることもある。[鎮地祭](#)、[土祭り](#)、[地祭り](#)、[地祝い](#)とも言う。費用は施工業者(奉獻酒や 玉串料は施主を含めた関係者)が負担する[\[要出典\]](#)。

一般的には、土地の四隅に青竹を立て、その間を[注連縄](#)で囲って祭場となし、斎主たる[神職](#)のもと、建設業者・設計者・施主らの参列の上で執り行う。場合によっては、赤白の[横断幕](#)を張ったテントの中で行われる事もある。祭場の中には木の台(案という)を備え、その中央に[神籠](#)(ひもろぎ、大榎に御幣・木綿を付けた物で、これに神を呼ぶ)を立てて祭壇(南向きまたは東向き)となし、米・酒・魚・野菜・塩・水等の[供え物](#)を供える。また、関西などの特定の地方によっては[伊勢神宮](#)近隣の浜から砂または塩を取り寄せ、四隅に置く場合もある。祭壇の左右に、青・黄・赤・白・黒の五色絹の幟に榎をつけた「[真榎](#)」を立てる場合もある。この五色絹は[五行説](#)における天地万物を組成している5つの要素、つまり木・火・土・金・水を表している。 ウィキペディアより引用

OPO